

[ここに入力]

春を告げる使者「福寿草」です。粕谷和夫の観察日記より。1月31日八王子堀之内寺沢里山公園の日当たりのよい斜面で「開花しようとしているフクジュソウ」に出会いました。この日は運よく越冬中のヤマシギにも出会いました。

紅葉台



新聞

第65号

2023年

2月18日

発行人：関谷 孝

クレヨンハウス 朝の教室から1月22日

「今、原発回帰を許さない！」

小出裕章（元京都大学原子炉実験所助教）

最近日本の社会が大きく舵を切り始めている。「**軍備拡張と増税。**」「**原子力への回帰**」である。どれも政府が国民に十分な説明もなくゴールありきで決まっていく。私たちの命に係わる大きな問題であるにもかかわらず。年末の番組でタモリが「2023年は新しい戦前の始まり」と言った言葉が現在の危うさを指摘している。

福島第一原子力発電所（原発）の事故が12年前の2011年3月11日福島で起きた。津波の被害だけでなく原発事故が深刻な状況を現在ももたらしている。今回は、原子力の基礎知識と共に岸田政権による原子力政策の大転換について皆さんに問題提起したいと話された。それは、命に係わる重要な問題であるにもかかわらず、今日本で再び原発回帰しようとしているからです。

今年の1月13日東電の元幹部は無罪判決となった。こんなに大きな事故でたくさんの関連死があったにもかかわらず、だれも責任を取らないのが現実である。（民事では責任を認め、約13兆の賠償を求めたが）重大事故が起きてもだれも責任を取らないのが明らかになる。それは、これから同じことが起きてもだれも責任を取らないから安心して同じことを繰り返せることを意味する。

かつて広島にアメリカは、原爆を投下した。その悲惨さを人類史上初めて経験した日本である。広島原爆に使われたウランは、800g。原子力発電所1基が1年に使用するウランは1トン。（約1000倍）言い換えれば1トンの「死の灰（放射能）」が生まれることになる。それが日本には57基もの原子力発電所がある。

福島から放出された放射能はIAEA（国際原子力機関）の試算によると広島原爆の168倍。特に炉心が溶け落ち、デブリになったあと、これから先100年たっても取り出すことは不可能だという。東電はロボットで取り出そうとしているがコンピューターは被爆すると使えなくなる。とくに話題になるセシウム137は、半減期が30年。100年で十分の一。「原子力緊急事態宣言」は12年たってもそのままである。一番汚染のひどかった村の人たちが住み慣れた故郷を避難し、今も故郷に帰れないでいる。牛も犬も飼っていた生きものはそのまま置いてきた。放射能は目に見えず痛くもかゆくもないが確実に生き物の体をむしばんでいく。



岸田政権による政策の大転換が始まっている。あれだけの事故があり、世界の先進国は自然エネルギーに切り替えているにもかかわらず、当事国の日本はもう絶対

紅葉台新聞が『高尾フモト同盟』に掲載されています。高尾にあるお店や様々な情報が満載です。検索して見てください。皆さんからの原稿をお待ちしております。楽しかったこと、好きなこと何でもOKです。

原発はこりごりと思ったはずなのに。なんと原発の「最大限活用」「寿命の撤廃」「新型炉の建設」それをGX（グリーントランスフォーメーション）というわけのわからない言葉に置き換えて、CO₂放出を減らすためという理由で原発に舵を切った。

小出さんは長年の研究から、「CO₂は悪くて死の灰はいいのか」と問う。実は温暖化は100年前から始まっていることをグラフで説明してくれた。今地球は温暖化に向かっている。原子力のウラン加工や建物建築にたくさんのCO₂が排出されている。ましてや、事故が起きることを想定すると取り返しがつかない損害をあたえられるのは今回のことを見ても明らかである。

問題は「CO₂ではなく、エネルギーの大量消費、浪費社会を廃止することではないか」「原発が破壊された時の被害は甚大である」それはウクライナ戦争を見てもわかること。いくら軍備を拡充しても（世界9位の軍事大国になる）日本は日本海に並ぶたくさんの原子力発電を攻撃されたらおしまいである。そんなことは自明の理である。いったん戦争になったら「人は自由意志を奪われる」。また来た道を後戻りするという愚を繰り返す。戦争をしない努力の方が一番大切なことではないかと。

最近、電気料金が高騰している。円安とともにウクライナ戦争に原因があるというが、石油・天然ガスに頼らず、再生可能エネルギー（太陽光発電等）に変えていくべきではないか。先進国はすでに再生可能エネルギーに舵を切っている。小出さんの話を聞いて、このような情報が国民に正しく伝わっていないと感じる。いまこそ、しっかり学んで、これからのエネルギー問題を真剣に考えなければ。目から鱗の素晴らしい内容の話でした。皆さんはどう思いますか。大いに語っていきましょう。

粕谷和夫の観察日記 オオバン(左)とミコアイサ(右)



高月浄水場の池に野鳥のニューイヤーカウントに行きました。ミコアイサのペアにオオバンが新年のあいさつに来たような光景に出会いました。

♥ ミコアイサのオスはサングラスをしたイケメン、雌もおしゃれです。渋谷でぶらぶらしているカップルのようですね。一方、オオバンは地味な感じ。ミコアイサはなかなか写真に収めるのは難しいので貴重なショットです。



オナガガモ

栃木県真岡の井頭公園に鳥見に行ってきた。カモだけで10種もの多種が観察される素晴らしい探鳥地でした。この写真はオナ

ガガモの水面浮遊物の濾し採り採餌です。オナガガモは通常は頭を水中に突っ込んで逆立ちになって餌を採るので珍しい光景と思いました。